

第6学年B組 外国語科学習誘導案

教諭 新田見 龍太郎

単元 世界一のピザ屋寸劇コンテスト (関連: 東京書籍 NEW HORIZON Elementary 6 Unit 6)

(本校教育課程 外国語科単元 第7項 11月上旬～11月下旬 7時間)

「単元の問題」を提起する根拠

○ 子どもの興味・関心の実態

本学級の子どもは、動画投稿系 SNS に関して話したり、バラエティ番組のグランプリや王座決定戦について話題にしたりする姿が見られる。そこで、外国語コーナーにマレーシアの現地やマレーシア日本語学院で行われた日本語スキットコンテストの写真や動画を掲示した。すると、「スキットって何ですか。どうして日本語でスキットをするのだろう。」「先生、日本語を話せるようになるために、スキットをしているのですね。」と話すなど、スキットに興味をもつ子どもの姿が見られた。そこで、「英語でスキットをやってみたいですか。」と聞くと、「やってみたいけれど、できるかな。」「台本は自分たちで考えるのですか。それはちょっと自信がないです。」「先生、簡単な台本を作ってくれませんか。」と話し始め、スキットに関心を高めつつある。

○ 子どもの能力の実態

本学級の子どもは、知識及び技能の面では、相手に自分の一日の生活や日常生活、できることを伝えたり、相手に尋ねたりすることができている。しかし、“～is from ….” “～is in the … group.” の食材の産地、食べ物の栄養素についての英語表現は、新たに学習する語句であり、身に付いていない。思考力、判断力、表現力等の面では、基本的な表現や語句を使い、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができている。しかし、スキットに取り組むことで英語や演技の表現を広げたり、深めたりしながら身近で簡単な語句や基本的な表現を用いて話すところまでには至っていない。その原因としては、スキットが初めての経験であることに起因すると考える。

○ 社会からの要求

グローバル化が進む社会の中で、他者とつながる大きな道具として英語を用い、自分や相手のことを理解し合うために、コミュニケーションを図ることは大変重要である。コミュニケーションの中で、食材の産地、食べ物の栄養素について、短い話を聞いてその概略が分かったり、話したりすることができる力はコミュニケーションを豊かにする要素であり、文化的な理解を深める上でも必須である。また、スキットはちょっとした内容を含んだ短い劇である。場面を設定して劇化して表現したり、自分たちで考えて創りだしたりするものである。このスキットに取り組むことを通して、英語や非言語での表現を創造する楽しい活動になると考える。子どもは「この場面設定では、こんなことを英語で伝えてみようかな。」「伝えるためには、この言葉は難しいから簡単な英語表現にすれば相手に伝わるかな。」という気持ちになる。このような目的や場面、状況などを踏まえた能動的な心情を、自分の中でつくり出せる力が外国語科の主体的・対話的な深い学びにつながる。このことは、今後、日本語や英語でのやり取りを求められる場面に出会うであろう子どもが、短い英語表現の中で、自分らしく話すことができる態度や能力を育むことに資するものと言え、大変意義深い。

○ 教科系統上の要求

第6学年では、これまで自分の一日の生活や日常生活、できることを伝え合ってきている。ここでは、それらの既習表現を基に、食材の産地や食べ物の栄養素を表す新たな英語表現や語句を使って、世界一のピザ屋に宇宙人がやってきたという設定の中でオリジナリティを加味した寸劇を行う。この学習は、第6学年 Unit7「小学校生活の思い出を伝え合おう。」の学習へつながり、さらには中学校における「A Surprise Party」へとつながっていく。

単元の問題

英語を用いた寸劇コンテストをして伝えよう。

- グループで寸劇に必要な準備や練習をしよう。
- 寸劇コンテストに向けて、互いの寸劇を見合ってアドバイスし合おう。
- 世界一のピザ屋寸劇コンテストをしよう。
- 表彰式を行い、学習をふり返り、まとめよう。

目 標

<知識及び技能>

○ “What did you eat for ~?” “I ate ~.” “I usually eat~.” “~is from.” “~is in the… group.” およびその関連語句について理解し、考えや気持ちなどを伝え合うことができる。

<思考力、判断力、表現力等>

○ 自分たちの英語や演技の表現を広げたり、深めたりしながら食に関することや食材の産地、食べ物栄養素などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

<学びに向かう力、人間性等>

○ 相手に伝わる工夫や配慮しながら、興味や関心を引き付けたり、食に関することや食材の産地や栄養素などについて伝え合おうとしたりしようとする。

誘 導 の 着 眼

【着眼1】 自分なりのこだわりをもって追究するための単元構想

必修の語句や英語表現を使い、英語で表現する活動に興味・関心を高め、英語表現やジェスチャー等の非言語を自分なりに選択・決定しながら追究することができるように、以下の手立てを講じる。

	出会う・見通す	気付く・親しむ	生かす・広げる
ねらい	「よりよい寸劇をしたい。」という意欲を喚起することができるように、また以下の4つの特性を含みもつ教材へと転化することができるようにする。	子どもが「自分たちのオリジナリティ溢れる寸劇を披露したい」「審査でより高得点を得られるように、よりよい寸劇を披露したい」といった目的や思いをもち、単元を通して、その目的や思いが持続することができるようにする。	今までの学びを活かした寸劇を披露し、学びを確かめたり、学習を通しての自己の高まりを実感したりすることができるようにする。
手立て	【自律性】【関係性】【有能性】【本質性】を含んだ、寸劇に取り組み、互いに高め合うためのコンテスト形式で行う活動を設定する。また、スキットを行うことで得られる【本質性】を伝える。	コンテストの審査基準を話し合い①内容②演技力③英語力の3つの視点で審査基準を設定する。また、よかった点や改善点を記述により集約し、共有する。	スキットコンテストを開催し、審査し合う活動を設定する。その後、学習を通して「できるようになったり、分かったりしたこと」「楽しかったこと」「今後挑戦してみたいこと」の3つの視点から振り返る活動を設定する。

こだわる(自律性)	台本をアレンジしたい。英語や演技等の表現を何度も練り直したい。
かかわる(関係性)	コンテストでより高い得点を得られるように、グループで協同したい。
つくる(本質性)	英語や演技等の表現を広げたり、深めたりしたい。 ・ 非言語は相手に伝えるための補助としての存在に気付く。 ・ 演者と観客の意味のある発表であり、コミュニケーションでもある。 ・ 設定の中で様々な英語表現を思考し、判断することで、実際のコミュニケーション場面での英語表現がより広がり、具体的な理解につながる。
みつめる(有能性)	コンテストの結果から自分のよい点と改善点を自覚し、今後につなげたい。

【着眼2】 自己の英語や演技等の表現を発展させていく学びの状況に即した教師の支援

自らの見通しに基づいて、選択・決定しながら自分たちで考えた寸劇についての考えを広げたり、深めたりすることができるように、子どもの学びの状況を見取り、以下のような教師の支援を行う。

予想される学びの状況(例)	教師の支援
自分の英語は通じるのか、見通しや自信をもちたい。	<ul style="list-style-type: none"> スキット例文の提示 見通しや改善するための視点を見いだすことができるモデルスキット動画の配信 タブレット端末の音声入力を活用した自己の英語表現の可視化と即時評価活動の設定 グループごとの共有ノートを作成
一度試し、再考したり練習したりしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 他者へ聞きたいことを尋ねる活動の設定 参考になったこと、困っていることの全体交流活動の設定 自分たちに取り入れたいことを話し合い、再度練習する活動の設定 ロイロノートでよかった点や改善点の内容や3つの審査得点の共有

展開計画（総時間数 7 時間）

	主な学習活動	教師のねらいとその手立て	評価の規準と観点
出合う・見通す	1 簡単な語句や基本的な英語表現の音声を聞いて、食べ物や食材、栄養素、産地の英語表現を知る。 1	○ 日本語と英語の音声の違いに気付くことができるように、日本語で発話した後に、英語の音声を聞く活動を位置付ける。	○ 英語を聞いて、語句の音声と意味を結び付けて理解している。 (知識・技能)
	2 簡単な語句や基本的な英語表現の音声を聞いたり、食べ物の栄養素や産地の言い方を使って、友達とやり取りをしたりする。 1	○ 簡単な語句や基本的な英語表現を習得することができるように、聞くことを中心とした活動から話すことを中心とした活動へと段階的に活動を設定する。	○ 簡単な語句や基本的な英語表現を聞いたり友達とやり取りをしたりしている。 (知識・技能)
	3 食べ物や食材などの既習内容と前単元までの課題を基に、これからの学習についてやってみたいことと課題を解決するための話し合いを行い、学習問題を設定する。 1	○ 既習内容を生かした発展した学習にすることと前単元までの発表活動の課題を解決することができるように、5年生の教科書に掲載されていたイギリスの小学校の授業「drama」と宮崎県のスキットコンテストの映像を紹介し、英語で寸劇を行うという活動を設定する。	○ これから取り組みたいことを話し合い、目的・場面・状況を考え、中心問題をつくり、中心問題を解決するために、どのような活動が必要か考え、話し合っている。 (主体的に学習に取り組む態度)
中心問題 英語を用いた寸劇コンテストをして伝えよう。			
気付く・親しむ	分析問題 1 グループで寸劇に必要な準備や練習をしよう。		
	4 モデルとなる寸劇を参考に、自分たちでどう寸劇を作り上げていくのかを話し合い、そのために必要な英語表現を考え、準備をする。 1	○ 英語の寸劇が無理なく行い、また自分(自分たち)の考えが英語で表現することができるように、寸劇台本を配布し、必要に応じてオリジナリティを加える活動を設定する。	○ 自分(自分たち)の伝えたい寸劇について、簡単な語句や基本的な英語表現を考えている。 (思考・判断・表現)
分析問題 2 スキットコンテストに向けて、互いの寸劇を見合ってアドバイスし合おう。			
	5 各グループの課題を解決するための話し合いや練習を行ったり、お試し発表を行い、よい点や改善点を見付け、修正したりする。 ＜本時＞ 1	○ 自分たちの英語や演技の表現を広げたり、深めたりすることができるように、進捗状況を全体交流したり、全体の前で披露するグループを取り上げたりする活動を設定する。	○ 自分たちの英語や演技の表現を広げたり、深めたりしながら基本的な表現を用いて話している。 (思考・判断・表現)
生かす・広げる	分析問題 3 世界一のピザ屋寸劇コンテストをしよう。		
	6 今までの準備や練習をしてきた英語や演技の表現を使い、自分たちの寸劇を他者に披露する。 1	○ ①内容②演技力③英語力の3つの視点を意識して披露することができるように、寸劇コンテストを行い、審査し合う活動を設定する。	○ 伝えたい内容や演技での表現を整理した上で、自分たちの寸劇を他者に披露している。 (思考・判断・表現)
分析問題 4 表彰式を行い、学習をふり返り、まとめよう。			
	7 表彰式を行った後、学習してきたことを基に、スキットコンテストについてふり返り、本単元をまとめる。 1	○ 学習を通しての自己の高まりを実感することができるように、「できるようになったり、分かったりしたこと」「楽しかったこと」「今後挑戦してみたいこと」の3つの視点からふり返る活動を設定する。	○ これまでの学習をふり返り、3つの視点での自分自身の学びを自覚しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

(1) 主眼

寸劇の準備や練習、話し合いの後、お話し発表を行い、よい点や改善点を伝え合う活動を通して、自分たちの英語や演技の表現を広げたり、深めたりしながら身近で簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。









(2) 本時における学びを愉しむ子どもの姿

友達からのアドバイスや他のグループの寸劇を鑑賞したことを基に、英語や演技等の表現を広げたり、深めたりする姿。 【かかわる】【つくる】

(3) 準備

寸劇で使う簡単な自作の小道具

(4) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点 (○) と評価 (※)
<p>1 本時の学習のめあてを確かめる。</p>  <p>前回は、自分たちの寸劇の内容を話し合ったり、練習したりしました。</p>	<p>○ 本時の学習のめあてを立てることができるよう、前時の学習でシナリオを選択・決定した内容を想起する活動を設定する。</p>
<p>寸劇コンテストに向けて、準備や練習、お話し発表を行い、よりよい寸劇にしよう。</p>	
<p>2 前時のふり返りを基に、自分やグループの課題は何か確かめる。</p>  <p>○○のセリフのときの動きがまだ決まってないね。そこだけ確認しておきましょう。</p>	<p>○ 自らの学びを把握し、必要に応じて選択・決定した内容や方法を見直したり、寸劇を改善したりすることができるように、前時のふり返りを事前に把握し、コメントを返しておく。</p>
<p>3 個人やグループの課題を共有し、解決方法を話し合い、話し合いを生かした寸劇の練習を行う。</p>  <p>大きく両手を挙げて、驚いてからセリフを言ってみたらどうかな。それをみんなでリアクションしようよ。</p>	<p>○ 寸劇の英語や演技等の表現のよい点や改善点を見付けることができるように、審査基準を基にペアグループで見合ったり、学びの状況に即してタブレット端末を活用したり、グループで話し合いや練習したりする活動を設定する。 【着眼2】</p>
 <p>後半のオリジナルの場面だけれど、そしてアドバイスをもらえたらよいな。</p>	<p>○ 英語や演技等の表現を広げたり、深めたりすることができるように、お話し発表を行い、ロイロノートのアンケート機能を使い、よい点や改善点を全体で共有する活動を設定する。 【着眼2】</p>
<p>4 お話し発表を行い、参考になったことやよりよくするためのアドバイスを話し合う。</p>  <p>お話し発表で、みんなからのよかったところや改善点の意見をたくさんもらいました。グループでもう一度見返しながら、自分たちのグループのよい点は伸ばして、改善点はすぐに修正していきたいです。</p>	<p>○ 自分たちに取り入れるべきよい点や改善点を精査して選択・決定することができるように、話し合いに教師が入り、子どもの求めに応じて必要な支援や助言を行う。</p>
 <p>3つの審査基準の得点では、「演技力」「表現力」の得点が低かったです。強調したいときは大きな声ではっきり言いながら身振り手振りをするように気を付けているのだけれどな。そうだ、タブレットを使って分かりやすい演技の動画を見てみよう。</p>	<p>○ 全体で共有した参考になったことや改善点を活かすことができるように、再度グループで話し合ったり、練習したりする時間を設ける。 【着眼2】</p>
<p>5 寸劇に必要な英語や演技の表現の修正を行った後、再度グループで練習をしたりする。</p>  <p>そうか、自分の英語や演技の表現を客観的に見られるように、タブレットで撮影して、グループのみんで見返しながら話し合おう。</p>	<p>※ 自分たちの英語や演技等の表現を広げたり、深めたりしながら、身近で簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。</p>
<p>6 本時の学習をふり返り、次時を見通す。</p>  <p>聞き手のことを意識することの大切さを再確認できました。次回は、コンテストなので、今までの準備や練習の成果を発揮したいです。</p>	<p>○ 学びの効果を実感したり、次時の見通しをもったりすることができるように、「今日はどうでしたか。次回のコンテストでは、今日学んだことをどう生かしたいですか。」と問う。</p>

